

平成28年度第1回東庄町総合教育会議（議事録）

1. 開催日時 平成28年4月25日
開会：午後2時30分 閉会：午後3時30分
2. 開催場所 東庄町役場 会議室2
3. 議 題
(1) 教育の条件整備など重点的に講ずべき施策についての意見交換
4. 出席者
東庄町長 岩田 利雄
教育委員会
教育長 五十嵐 正憲
教育長職務代理者 多田 和代
委員 小林 衛治
委員 向後 元道
委員 林 英伸
事務局 総務課長 多部田秀也、総務課長補佐 堀江弘之
庶務係長 山田正章
5. 傍聴者 7名
6. 議事の経過 別紙のとおり

多部田総務課長 ただいまから、東庄町総合教育会議を開催いたします。次第に沿って進めさせていただきます。はじめに町長よりごあいさつを申し上げます。

岩田町長 それでは会議に先立ちましてあいさつ申し上げます。委員皆様方には、平成28年度第1回目の総合教育会議ということで参集賜りまして誠にありがとうございます。本日は、平成27年度第1回目の総合教育会議でも議題となりました、教育の条件整備など重点的に講ずべき施策についての意見交換をお願い申し上げる次第であります。私は、昨年策定しました東庄町教育大綱に基づきまして、町と教育委員会が一体となって、子供たちのための教育行政を進めるため、協議・調整を図り連携を密にする必要があると考えているところでございます。みなさまには、町教育に関する課題を共有し、そしてまた、今後の施策方針等について有意義なご意見を賜りたく、お願い申し上げます。

多部田総務課長 ありがとうございます。つづきまして、教育長よりごあいさつを頂戴いたします。

五十嵐教育長 それでは、私の方から今年度第1回目の総合教育会議に先立ちまして、教育長として一言ごあいさつ述べさせていただきます。昨年度この総合教育会議は2回ほど実施したということであります。私はその2回は出ておりませんが、その議事録を見せていただいたところ、東庄町教育大綱がそこで定められたということでした。そこには、一番初めに子供の教育と健全育成であります「知、徳、体」が載っていました。私が着任しました4月1日にも「知、徳、体」の話をしました。「知、徳、体」のバランスの良い教育、これは非常に大切であると考えております。そのためにも、さきほど町長が言いましたとおり、教育環境あるいは教育整備、そういったものが大切になってくると思います。この会議は町と教育委員会が一体となって子供をどうやって育てて行けばよいか、そのための教育環境、教育条件の整備を考えて行く、話し合っていく場であると思っておりますので、私も意見のある時は発表させていただきますので、委員の皆様もそれぞれ持っている意見を述べていただければありがたいと思います。東庄町の子供達のためによろしく申し上げます。

多部田総務課長 ありがとうございます。それでは、議事に入らせていただきます。議事進行は町長が行います。町長申し上げます。

岩田町長 それでは、議題の1「教育の条件整備など重点的に講ずべき施策についての意見交換」を議題とします。事務局より説明をお願いします。

堀江総務課長補佐 総合教育会議の協議・調整事項の一つであります教育の条件整備など重点的に講ずべき施策について、意見交換をお願いするものです。特に今回の会議では、今後協議を進めていくべき論点の洗い出しをお願いいた

します。

岩田町長 それでは、只今事務局から説明がございました今後協議を進めていくべき論点の洗い出しということでございますが、私から論点の1つとして「児童生徒への安定した給食の提供」について申し上げます。前回は統合の話の中ででてまいりましたが、今後最大の課題は給食センターの課題等が挙げられるのではないのかと思います。

この問題は、小学校の統合に向けた、施設の適正な整備計画についても関連しており、給食施設の場所の問題であるとか、提供する食数であるとか、色々課題が出てくるかと思いますが、皆様にもご意見をお伺いしたいと思っております。給食も、今の配送のシステムでよろしいのか、それとも各学校の中において、そこで給食を作るという形のものかというところで皆様方のご意見等があればお伺いしたい。個人的な意見を申し上げますと、私は施設が2つあるとすれば給食は配送システムよりも、その場で給食を作って子供たちに提供する方法の方が良いのではないかと考えていますが、みなさま方の考え方もお聞きしたいと、このように思っているところでございます。まあ、これは今後協議を進めていくうえで、かなり重要なラインになっていく要素の一つだろうと、このようにも考えてもおりますので、どうか忌憚のないご意見等が伺えればありがたいなと、このように思っていますのでよろしくお願い申し上げます。

向後委員 そうしますと、平成32年に小学校が統合される計画がありますので、今の中学校と小学校の2つ施設についてということでお考えのようですが、そこに橘と笹川の2つの幼稚園についても今後の議題にさせていただかなければいけないと思います。平成32年に橘の小学校が廃校になった時に、あそこに幼稚園がぽつんとあることは、非常に安全上は問題ですし、また小学校と合わせて当然、園児数も減っているわけですから、いずれはタイミングを合わせて幼稚園も統合しなければならないと思います。そうなると、笹川に小学校があれば必然的に幼稚園も笹川幼稚園に統合となるのでしょうか、今の町長の話ですと、自校式にした場合には中学校、小学校それから幼稚園と3つで給食をやるのかということにもなってきます。まあ、笹川は小学校と幼稚園が近いですから、運ぶことは可能であると思えますけどね。ただ、いずれは中学校にしても小学校にしても校舎の建て替えというのは将来的には出てくるわけです。その時に、同じ敷地内に建てるような考え方が、もしあるとすれば幼小中で先を見据えた建て方も一つの考え方としてあるのではないかと思います。もちろん、自校式というのも非常に素晴らしいことですが、その将来というのがどのくらい先になるのかわかりませんが、そういうことを見据えた考え方を一つはしていかなければならないのかなと私は考えています。

岩田町長 はい。ほかには何かございませんか。

小林委員 よろしいですか。給食センターの問題ですが、当初は機械がかなり傷んでいるので先行しなければならないということで、給食センター運営委員会で検討していただいたのですが、そこでやはり、統廃合の問題がどうしても絡んでくるので、その経過を見ながら検討するということになりました。今になってみますと、かなり機械が傷んでいる状況ですので、私も正直なところ、町長の方からお話が出た笹川小と中学校に給食施設を置くという意見は非常に良いとは思いますが、教育委員会の中では、今回の統廃合の問題は、まずは小学校を統合する、そのあと中学校も古くなっていますから、最終的には小中一貫というような形の方向にもっていかざるを得ないのではないかとというような考えがありました。そうしますと、町長からお話のあった自校方式という考えは無駄な感じはありますが、機械が傷んでいるというようなことを考えると、正直言って今のところどっちがいいのか悩む問題ではあることは事実であります。小中一貫的なものが先に出来るのであれば、そこに立派なものを一緒に作ってやるのがベターなのかなと思いますけど、その辺のところはこれからもっと詰めていかないといけないと思います。ただ、機械の傷み具合をみてぼつぼつお金をかけることが、はたしていいのかなというような問題も正直なところあります。ですから、給食センターの問題については進めざるを得ないのではないかと、このように思います。まあ財政の問題もからんできますね。あともう一点は、向後委員の方から出ましたが幼稚園の問題、前にも幼稚園の話は出ましたが、小学校の統廃合の問題を協議しているときに、また幼稚園の話をして話が外れてしまってはまずいだろうということで、小学校の統廃合の話優先的に進めたんですが、よく考えてみると橘の畑の真ん中に幼稚園がぼつんと残されてしまうのは、セキュリティの問題もありますので、そのまま放っておくわけにもいかないという意見もでていました。小学校の統合をするときは、幼稚園も検討せざるを得ないのかなというような感じではあります。まして今年度入ってくる幼稚園生は笹川幼稚園で32人しかいないのです。橘も30人くらいですか。そのくらいしかいない状況になってしまっている。当初想定していたよりだいぶ人が少なくなっているなあと感じます。まあこれは事実でありますので、これも検討課題であると思います。今、喫緊の課題としてはこの3つが大きな問題であると思います。

五十嵐教育長 今、統合の問題に絡んで、給食センターの問題、あと幼稚園の問題が出ましたが、給食センターの問題については、それこそ私は3月末まで中学校で給食を食べていましたが、やはり「温かいものを温かいうちに食べさせたい。冷たいものは冷たいうちに食べさせたい。」これが第一原則であるという感じがします。

私は、新しい栄養士が配置されるたびに「まだ栄養士になったばかりなのだから栄養バランスよりも、まずはうまいものを作れ」と、「うまいものを作れば子供たちは全部食べてくれる。それは栄養になるのだ」と言っておりました。いくら栄養バランスが完璧でも、おいしいものでなければ子供は食べません。食べなければ栄養になりません。だから栄養バランスよりもまず、みんなが黙っていても食べてくれる給食を作ってほしいというような内容です。その中のある栄養士が佐原から佐倉の学校へ移動したのですが、そこは自校給食でした。自分のところで給食を作っているの、子供たちがどのように食べているのかわることができ、また子供たちも調理員が作っている様子を見ることができます。調理中の匂いも感じながら、子供たちは給食を美味しく食べているんじゃないでしょうかというような話をしておりました。当初、諸課題検討委員会の時には給食センターという形でしたが、私はできれば自校給食などはどうだろうかと思います。そうすることによって子供たちは、おいしいものを食べ、栄養もつけ、体もできてくる、このように私は思います。

多田育長職務代理 私は5年前まで保育所に勤務していました。保育所は、全部その施設の中で給食を賄っています。そうすると給食を作った人たちは、子供たちの反応を見ることができます。子供たちがこんな風に食べているのかということがわかります。子供たちは、それこそ家庭的な雰囲気の中で給食が食べることができます。教育長さんが先ほどおっしゃった様に、子供たちの食べる様子も実際に作る人たちが見ることができる自校方式というのは理想的だと思います。これからの給食ということで注目されています。しかし、すごく理想的だと思いますけれども、東庄町は小学校と中学校の一貫教育を目指すうえで、小学校と中学校に2つの給食施設を作ることがはたしてどうなのかなということも考えてしまいます。

五十嵐教育長 はい、よろしいですか。

今、一貫校を目指すという話も出ましたが、それについてどういう形で一貫校を目指すかによって変わってくると思います。その辺はもう一度詰めていくべきだと思います。一貫といっても色々な形の一貫がありますし、それが可能なかどうかも含めて検討する必要があるのかなと思います。たとえば具体的に何が可能なのかというと、今の段階で中学校の先生が小学校の指導はできると思いますが、小学校の先生は中学校の指導はできません。なぜかというと中学校の免許を持っていないからです。これは平成14年ですかね、免許制度が変わってから、中学校の先生は自分の専門教科なら小学生も教えることができるようになったようです。しかし、その逆はだめだということです。そうすると、理想的には小中両方の免許を持った先生をある程度集めなければ難しいと思います。それをどれだけ集められるのかということも含めて検討する必要があります。

ます。それともう一つ、将来的には義務教育学校という形でその免許制度が変わってくると思います。そういうことを見据えた上でやっていかなければ、小中一貫ということで校長は一人になりました。一つの学校になりました。でも実際には、校長は一人でも、学校教育目標も9年間同じでも、それを色々な面で、カリキュラムを含めての目指すものを作っての指導するのは難しくなる可能性はあります。ある程度大きな市であれば、小中両方の免許を持った先生を少しずつ集めていくことも可能であると思いますが、それが本町ではどうかということです。私は、教育長に着任する前から、その辺を心配に思っていたので検討させていただきたいと思います。以前、教育行政諸課題検討委員会の時も、どこまでの一貫を目指すのかということを知ることがありますが、その辺のことを十分検討した中でなければ難しいかなと思います。否定的に言っているのではなく、やるのであれば、しっかりとやるためにその辺も考えてやったほうがよい、そういうつもりで私は4月1日を迎えました。

林委員 色々な論点が出てきてしまっているの、少し整理した方がよいと思います。まず、給食センターの件ですけど、私は個人的に、自校方式で温かいものは温かいうちに食べられことが理想的だと思います。そのうえで、教育委員会で今まで検討してきたベースはやはりセンター方式であります。地区にどのような形で設けられるのかとか、その辺の理想を追いかけるよりも現実的なことをかなり教育委員会としては押し込んできたという経緯があります。そういった中で、センター方式でも温かいものを温かく届けられるものは食缶方式であろうという結論になったのが教育委員会としてのある程度の方向性であったと思います。その当時の資料を振り返ってみますと、平成32年に統合すると小学校で460食位ですね、中学校は310食前後、そこから7、8年経過していくと小学校が300食強、中学校で170食強くらいです。このぐらいの規模で二つそれぞれ持つ形が実現できるのであれば各自校方式というもの出てくると思いますけど、今我々が検討してきた中では、従来型の自校方式のものしか検討資料がありませんので、その辺のところを今、ご提案いただいたのであれば、どういう新しい自校方式ができるのか、もっとコンパクトな自校方式があるのかもしれないですから、そういうものも含めて検討課題としていただきたいと思います。ただ、現在の給食センターの施設がもうだいぶ傷んでいるということも現実なので、時間と投資額、そういうものを緩和しながら詰めていく必要があるかと思います。その辺はまた色々な議論が出てくるのだらうと思いますが、冒頭で事務局からの説明で、今後進めていくべき論点の整理をお願いしたいとのことでしたので、給食センターについては、まず論点の一つということで、結論はおそらく出ないと思いますので一旦ここで議論を中止していただくのがよいかなと思います。

岩田町長 色々ご意見を伺いましたが、給食センターは設備が、だいぶ傷んでおり、毎年のように修理や部品の交換をしながら持ちこたえてきたわけであり、学校の統廃合の問題もありますが、早急にやらなければならない問題であると考えます。給食センターに関しては、やはりここで方向をきちっと決めるべきだろうと思います。一か所で給食を作って搬送するのか、それとも2か所作って配送車を全く使わない方式にするのかとか検討課題はありますが、壊れてしまったものは直さなければならないということはあるし、もうこれ以上使えないというものは作り直さなければならないということですから、私個人としては、給食センターは建て替えるということを決めていくべきだと思います。

私案でありますけども、先ほどの検討課題をクリアできる案としては、中学校の敷地内に給食センターは早く作るだろうと私は思っています。

中学校の位置は小学校の統廃合後も変わりません。二つの給食施設を同時に作ることは出来ないと思いますけれども、中学校につきましては先行することが可能です。食数の問題や、小学校への配送の問題等が課題として残りますが、給食センターが一つできることによって、中学生は自校の中で給食が取れるということになるわけであり、これを考えれば早い時期に給食センターを造るということで決定をいただいて、予算化をしていきたいと思っております。施設の整備と統廃合の問題が関係いたしますけど、一つずつクリアしていった中で考えていくことが大事であると思います。ただ、規模とシステムのことについてはもうちょっと時間をかけて話をしていく必要があるだろうと考えています。配送のシステムや中身についてはもう少し検討する余地がありますが、造るということだけはもう方向性を持ってもらえればありがたいなと、このように思っているところでございます。

小林委員 あともう一つ。前に町長から提案のありました、ランチルーム的なものですか、これもせっかく造るのであれば、400人一回に入るランチルームは無理だろうけど、学年ごとでもぜひ造った方が良くと思います。これはまだ私個人の意見でありまして教育委員会で決めたわけではありませんが、そういうものも、子供たちが楽しい食事ができるように考えてあげた方が良くと思います。

岩田町長 はい、それでは教育長、そういうような施設をもっている所はご存知ですか。

五十嵐教育長 はい、山田地区では、まだ町だったころにランチルームがありました。今もその小学校にあるかどうかはちょっとわかりません。実施していた学校も今はだんだん少なくなっていて・・・まあ確認はとっていないので・・・

岩田町長 山田は自校方式ですか？

五十嵐教育長 いいえ、山田はセンター方式で、府馬小の隣に給食センターがありました。まあ、ランチルームについても検討していくべきですかね。

向後委員 よろしいですか。造るということの大前提にすれば、議論としてはかなり早く進むと思います。どういう形で造るかということに入っていくわけですから、今までは色々と紆余曲折がありましたけど、町当局としての方向がこの会議の中でもはっきりと見えたわけですから、あとは我々がしっかりと検討して、また町長部局の方にこういう形で教育委員会として決まりましたという方向性はできるだけ早くお示しできるんじゃないかと思います。

岩田町長 色々な意見をいただきましてありがとうございました。提案というよりも、本来は早急にやらなければならない問題をずるずる引き伸ばしてきてしまったということは、行政側にとりましても大変申し訳なく思っておるところでございます。この問題におきましては、方向性が多少見えてきましたので、また色々ご議論いただければありがたいなと思っていますので、よろしく願い申し上げます。

給食の件は以上でございますが、他に何かございますか。

向後委員 それではよろしいですか。

冒頭でお話ししました幼稚園の問題ですが、これはもう小学校の統廃合と最も密に進めなければならない問題だと思いますので、教育委員会でも優先的に議論しなくてはいけないだろうという方向では話し合っています。

林委員 それについて少し附則をさせていただきます。平成32年に小学校を統合する方向で進めております。小学校統合の議論は、町民の皆様の意見を伺った結果として、今、この形があるわけですけど、今度幼稚園を統合しようとした時は、やはり一通りの意見を伺うとか、ある程度指針を示したうえでの手続きが、やはり必要であると思います。そうなってきますと、かなり具体的に進めていかないと、町民の皆様の理解を経て結論を導くにはタイムリミットのな問題もでてくるのではないかと考えておりますので、その辺のところを色々な方面から意見を伺いながら進めさせていただきたいと思います。

岩田町長 今のお話ですけど、委員会の中ではまだ正式な議題としては取り上げてはなかったですね。今後、早急にこの問題を議題として立ち上げ、できれば小学校・中学校含めた問題の時に、これも一緒に解決をしたい、こういうことでしょうか？

林委員 はい、そうです。

岩田町長 まあ、幼稚園の問題もですね、2つに統合した際は色々お骨折りいただいたわけではありますが、実際に2つに統合して園児バスでの通園にさせていただきます。当初は大変色々な問題があってクレームがつくのではない

かと思いながらスタートしたわけですけど、実際にはスタートしてから1度もクレームはございません。これは皆様のお力で、説明し理解をしていただいた結果であると思います。また、前には5つありました幼稚園を2つに統合したわけですから中々大変でありました。今度は、今の橋に通われている方をどうするかということであると思います。ですから時間的なもの事を考えれば、橋幼稚園に通われている方々の答えとか、地域の方々の意見を聞くという形の方が早いと思います。このような形で進めれば、時間も前ほどはかからないのではないかと思います。教育委員会の方でもこの問題についてご検討いただければありがたいなと思います。

他に何かありましたら是非とも出していただければと思います。

林委員 もう一点よろしいでしょうか。

もう一点は統合に向けてですが、小学校というのは町のシンボルでもありますので、大きく触れなければならないものがやはり、校旗、校歌、校章、そういったところをやはり決めていかなければならない。これも今日明日頼んだからすぐ出来て来るものでもないですので、どういう方式が良いのか、各地区の皆さんのご意見を聞くのが良いのか、そういうことも含めて教育委員会ですべて決めるわけにはいかないと思いますので、各方面からのご意見を伺いながら具体的に決めていく方策を作り上げて行かなければいけないと思います。

岩田町長 そうですね。一緒に同時にスタートしていてもよい問題ですね。進んでいくには色々な大きな課題も出てきますが、それも課題の一つかなと思います。この問題もクリアさせていくには理解をしていただかなくてはならないと考えておりますので、またその辺も含めてよろしく願いいたします。あと、今現在の学校の関係で特別な問題はないですか。

向後委員 私の知る限り、東城小あたりでは問題はないですね、

小林委員 神代小の場合は、近々複式学級になりそうな状況にあります。

岩田町長 今、郡内の町や合併したかつての町でも地域が分かれていますから、そのような問題が多いというような話があります。たとえば多古町では学校が7校ありました。それが今は複式学級でなければやっていけないという状況です。そこで早めに手を打ったのが香取市に合併した栗源です。栗源が1つに合併して、小見川もそのように持っていきたいというのは香取市の考え方だと思います。かつての旧町は一つにする体制になっていくのだろうと思います。まあ、小見川は人口が多かったのが今後どうなるかわかりませんが、近隣の町も全く同じような考え方でもありますし、合併をしたかつての町もそのような状況であります。そのような状況も含めて考えていただきたいと思います。

五十嵐教育長 よろしいですか。今、複式学級の話が出ましたが、東庄町の小学校統合計画の中では平成31年に神代小が2年生3年生で複式学級になる

予定ですが、それより早くなってしまう可能性もあります。私は、複式学級は避けたいと考えております。担任・校長・教頭以外に増置教員という教員が各学校に1名おります。複式になってしまった場合、その教員が対応できれば複式は避けられるのですが、その学校の教員の負担はかなり大きくなってまいります。ですから町としても、その負担を解消できるように手が打てれば打って行き、平成32年統合ですから、それまで複式にならないように考えていきたいと考えております。

向後委員 県費負担の教員の確保が難しいということであれば、町負担で統合までの間、神代小に限らず複式になるようなところは解消してあげなければまずいと思います。

岩田町長 他にございませんか。

それでは他に無いようでございますので、課題は残りますが、あまり時間を取らないで解決できるものは解決し、結論を出していくということでお願いしたいと思います。また、給食の問題も今日は議題としてのせました。統廃合の関係も色々と国の方も進めている部分もございます。先ほど、教育長の方から話もありましたが義務教育学校というものがあります。一連教育というものもあります。一貫教育というものもあります。それはこれから説明があろうかと思いますが、配置の関係だとこのように思います。たとえば1名の校長がすべて見るのか、校長は2名いるのか、どこで区分けするか、というようなものを含めると選択肢は色々出てくるのだらうと思います。またこれは国の方で、地域にあったもので取り上げてくださるとこのような指示は出ているわけでありませぬ。ですから、地域性は非常に大事になってくると思いますので、今後ともよろしくご検討の程をお願い申し上げます。長時間にわたりまして今日もご検討・協議をいただきました。また今後も、このような会議を続けてまいりたいと思いますのでよろしくお願い申し上げます。閉会ということにさせていただきます。ありがとうございます。

多部田総務課長 これで平成28年度の第1回東庄町総合教育会議を閉会します。どうもありがとうございました。